

第1章

認知症の進行例と支援体制図

ポイント

認知症は徐々に進行し、症状が変化します。

家族や周囲が認知症を理解し、進行に合わせて上手に対応していく事が重要です。下記は代表的なアルツハイマー型認知症の進行の例ですが、症状や経過には個人差があります。



1 認知症の進行と症状の例

健全なレベル

軽度認知障害(MCI)

認知症



日常生活に支障をきたす程ではないために認知症とは診断されないが、記憶障害と軽度認知障害(MCI)が認められる中間的な段階。認知症の初期症状とは異なる。



初期

日常生活に支障はあるが、概ね自立している



中期

日常生活に手助け・介護が必要



後期

常に介護が必要

本人の様子例

- 物の忘れがあっても自立して生活できている

- 約束が思い出せない
- 物事が覚えにくい
- やる気がでない
- 不安が強い
- 「物を盗まれた」などのトラブルが増える
- 失敗を指摘すると怒りだす事がある など

- ひとり歩きが多くなる
- 妄想が多くなる
- すぐ興奮する
- 着替えや食事、排せつがうまくいかなくなる
- 服を脱ぎ着することができなくなる
- ついさっきのことも忘れる
- 時間や場所がわからなくなる など

- 表情が乏しい
- 排せつの失敗が増える
- ほぼ寝たきりで意思疎通が難しい
- 日常生活全般にいつも介護が必要
- 家族の顔や使い慣れた道具がわからないなど

家族・周囲の心構え

- 認知症の正しい知識や接し方等を学びましょう。
- 本人の思いや趣味を把握しておき、認知症になった時に「その人らしく」生活していくための準備をしておきましょう。
- 生活上の支障が大きくなる前に家族や地域の人たちに見守りや声かけのお願いをしておきましょう。

- 家族間で今後の介護の事などについて話し合っておきましょう。
- 専門医療機関の受診や介護保険サービスの導入について早めに地域総合支援センターなどに相談することが大事です。

- 介護する家族の健康管理に十分気を付けましょう。
- 介護の負担が増えるため、抱え込まず、早めに担当ケアマネジャーや地域総合支援センターなどに相談し、各種サービスや専門職を上手に活用しましょう。(サービスの例は4-5ページ参照)

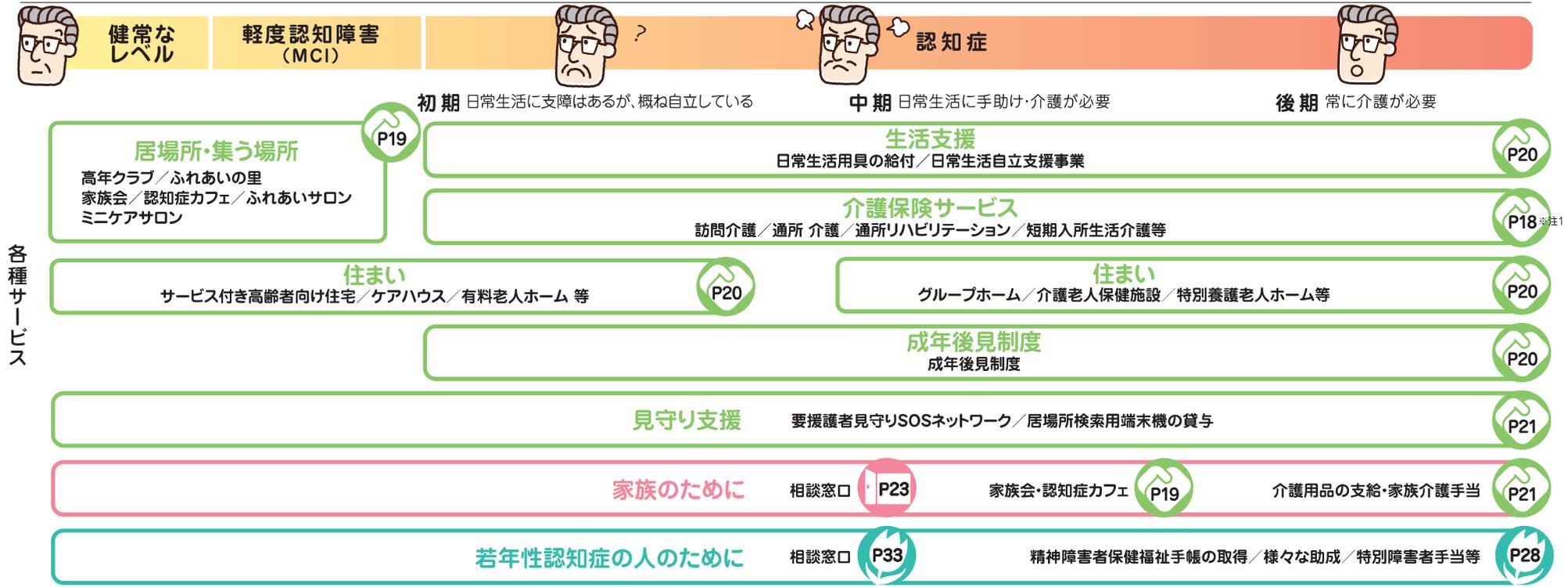
- 日常生活でできないこと(食事・排せつ・清潔を保つなど)が増え、合併症を起こしやすくなることを理解しておきましょう。

第1章 認知症の進行例と支援体制図

本表は、認知症の進行段階による各種サービスをイメージしたものです。
●の中の数字は、掲載ページを表しています。



2 認知症の進行例と支援体制



3 支援体制図

